



未来に向かって伸びる鶴嶺の子

鶴小だより 4月号

ご進級

おめでとうございます

茅ヶ崎市立鶴嶺小学校
校長 日高 大司郎
令和7年4月7日発行



春の暖かな日差しの中、小学校に子どもたちの明るい笑顔と元気な声が戻ってきました。児童の皆さんの進級を、心よりお喜び申し上げます。

本年度も引き続き校長を務めさせていただきます、日高大司郎です。皆様にお世話になった教頭秋山は、この春に離任となりました。新しく茅ヶ崎小学校より「川崎達雄教頭」が着任いたしました。どうぞよろしくお願いします。

子どもたちはもちろんのこと、保護者の皆さんや地域の方々とながら、「未来に向かって伸びる鶴嶺の子」育成に向けて、職員一同、努力して参ります。

さて、本校に残されている、昭和2年に書かれた学校だよりには、当時の佐藤萬吉校長先生のご家庭への思いが記されていました。

「最初に述べましたように、どうしても子供の教育は、お家と学校の一致により実が結ばれると思ひます。学校の教育にお考えがありましたら、学校に遠慮なしにお聞かせください。よろんでお聞きいたします。」

僕も、同感です。学校は、「子どもの幸せ」のために活動しています。保護者の皆さんも「子どもの幸せ」を願っているはずで。同じ願いに向かって、「共育（ともぞだて）」をすることで、それが実現できるのではないのでしょうか。時には、意見が合わないこともあるでしょう、本校の職員が至らないこともあるかもしれない。しかし、もしそういうことが起こったとしても、同じ目的のために、同じ方向を探って、協働して育てていく必要があるのです。いつも子どもが僕たちの真ん中です。その真ん中の子どもたちのために、知恵を絞って一緒に「共育」して参りましょう。

最後に、お願いをいたします。3月19日に、117回卒業式を挙行いたしました。子どもたちは、胸を張ってそれぞれ良い顔で巣立っていきました。その一方、僕は喜びきれない気持ちもいただきました。式の後半で、職員室から連絡をもらったのです。そのメッセージには、「フジスーパー」さんからの苦情が書かれていました。「スーパーの駐車場に車を停めて、卒業式のために学校に向かう保護者を何組も見た。お祝いの最中なので、すぐに動かせとは言わないが・・・。」という内容でした。

残念でした。こんなに子どもたちが頑張っているのにと思いました。皆さんは、どう考えますか。自分のお家の駐車場に、知らない人が車を停めていたら、憤慨されないでしょうか。それを「おかしい」とお感じになるとすれば、たとえお店であったとしても、「おかしい」ことなのです。子どもたちは、保護者の皆さんの言動を行動を見ています。僕ら大人が、子どもたちに恥ずかしくない、逆にまねたいと思えるような生き方を目指すことは、そのまま彼らを幸せにするためのメッセージに他ならないと思うのです。

本校でも、大型バスを利用して、遠足等に出かけます。しかし、バスを4台も5台も停められる場所はありません。現在、フジスーパーさんのご厚意で、バスの駐車許可をいただいています。「もう停めてくれるな。」ということになれば、バスを使った遠足等は諦めざるをえません。保護者のみなさんの行動で、子どもたちが不利益を被ることになるのです。